

予告

(公財)南方熊楠記念館共催 小企画展
『本山桂川と閑話叢書－刊行から100年－』
2/7(土)より開催予定!

令和8年は南方熊楠の生前単行本出版100周年です。熊楠の最初の単行本『南方閑話』を企画編集した、市川市にゆかりのある民俗学者 本山桂川についての展示を歴史博物館で開催します。

会 期: 令和8年2月7日(土)
～3月22日(日)

場 所: 歴史博物館1階
常設展示室

季節の展示
『全力男子』も準備中!
4月開催予定です



ワークショップ

考古・歴史博物館では土曜・日曜を中心に、子どもも大人も楽しめる様々なイベントを実施しています。

日程・内容については、博物館公式WEBサイトまたはSNS等をご確認ください。

考古博物館

- ・貝塚ガイドツアー
- ・縄文服試着体験
- ・火おこし体験
- ・組紐ストラップづくり
- ・勾玉づくり(有料)

歴史博物館

- ・紙芝居劇場
- ・昔のおもちゃであそぼう
- ・紋切りあそび
- ・火打ち石体験
- ・お手玉あそび
- ・竹と枝と木の実の工作

考古博物館のお知らせ

下総国府を“体感”できる VRゴーグルを考古博に設置しました!

最新の技術を使って「下総国府」「下総国分寺」「北下遺跡」の歴史と魅力を3DCGで体験できるVRゴーグルを考古博物館に設置しました。

下総国府にかつて存在していた国庁や下総国分寺の七重塔など、当時の建物や風景を再現した臨場感あふれる映像をお楽しみいただけます。ご来館の際にはぜひこちらのVRゴーグルも体験してみてください!



図1 下総国分寺3Dイメージ

ご利用案内

【時間】 9:00～16:30
【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)
【入館】 無料、補助犬同伴可
車いす各館1台あり

【駐車場】 一般車30台
お体の不自由な方等の車両 各館1台あり
大型バスの利用不可



第77号
発行 令和8年2月

考古・歴史博物館だより

縄文体験フェスティバル in 堀之内貝塚開催!

考古・歴史博物館では、3月に「縄文フェスティバルin堀之内貝塚」を開催予定です。

例年ご好評いただいている、摩擦式の火おこし体験、縄文服の試着体験や弓矢を射る体験など古代人の生活を体験できる貴重な機会となっています。

また、その他にも堀之内貝塚のガイドツアーや組紐体験、火打ち石を使った火おこしに紋切りあそびなどのさまざまな体験を実施予定です。キッチンカー等も出店予定ですのでぜひご利用ください。

来場に際しての事前申し込みは不要ですが、体験によっては一部有料のものがあります。
※内容は都合により変更になることがあります。

期 間: 令和8年3月22日(日)
10:00～14:00
場 所: 考古・歴史博物館
堀之内貝塚広場

※当日は駐車場の混雑が予想されるため、公共交通機関の利用等にご協力ください。

※雨天時は縮小開催、荒天時は中止となります。

事前申込不要 ※先着順・一部有料

市川考古博物館
〒272-0837
市川市堀之内2-26-1
☎ 047-373-2202

市川歴史博物館
〒272-0837
市川市堀之内2-27-1
☎ 047-373-6351



考古・歴史博物館
公式SNSで情報発信中!



X (旧Twitter)



Instagram

古代下総国の国・郡・里—下総国の範囲16

下総国の国境について、西から北へとめぐり、残すは東と南となった。東は太平洋、南は上総国との国境と東京湾で、今回取り上げるのは上総国との国境である。

上総国との国境は、基本的に下総国側の印旛沼に流れ込む水系と、上総国側の太平洋と東京湾に流れ込む水系との分水界である。JRの外房線に乗って、誉田駅から土気駅間の車窓を眺めると、北に延びる谷と南に延びる谷が目に入る。これが国境となる分水界の景観で、大網白里駅との間で国境は北へと向かう。

問題はこの分水界に至る太平洋と東京湾からの国境のラインである。太平洋からは栗山川、東京湾からは村田川が国境となるのだが、問題なのは栗山川からのライン、下総国匝瑳郡と上総国武射郡の境である。

太平洋から栗山川をさかのぼると、多古町牛尾というところで下総台地によって、東側の本流と西側の支流高谷川に分岐する。今までみてきた国境は河川となること

が多かったが、この場合は栗山川に沿うことなく、牛尾あたりから栗山川と高川に挟まれた台地を縦断するように国境が設けられた。この国境は近世の国境に踏襲され、現在では千葉県多古町と芝山町の境となっている。

なぜなら、低地では栗山川東岸（下総国側）の横芝光町台駒形遺跡から「口〔匝カ〕瑳郡」銘の墨書土器が出土し、この台地西側の高谷川に面した芝山町小原子遺跡群庄作遺跡から「上総国」と記銘された墨書土器が出土しているからである。下総国の場合、郡の境が台地中央となる場合がままあるので、この国境の事例もそれに同じなのであろう。

さて、次回から郡や郷についてお話ししなければならないが、筆者は本年3月をもって退職となる。中途半端で申し訳ないが、この連載もこれにて擱筆としたい。皆さんお元気で。

(考古博物館学芸員 山路 直充)



第1図 下総国図

市川の民具⑬ 海苔抄き杵^す —第2回 収蔵庫整理事業報告展示資料紹介part2—

歴史博物館では令和6年度から、國學院大學観光まちづくり学部の学生さんにご協力いただいて、収蔵庫整理を行っています。令和7年度は市川の手づくり海苔に関する民具を調査し、『第2回 収蔵庫整理事業報告展示』(7月5日～1月末)を開催しました。今回はその展示資料の中から、『海苔抄き杵』についてご紹介します。

海苔抄き杵は、その名のとおり海苔を抄くための杵のことで、「海苔抄き」という工程で使われる道具です。海苔抄きは、刻んで水に溶かした生海苔を海苔抄き杵の中に流し込み、天日で干して(乾かして)四角くする作業のことで、熟練した技術を必要とするものでした。四角い海苔に、海苔抄き杵は必要不可欠なものだったのです。そしてまた、海苔の大きさを決める重要な道具でもありました。

海苔の大きさは、時代や地域によってさまざまです。海苔巻用の海苔は縦22.7cm×横20.9cmでしたし、御膳御用の海苔は縦36.9cm×横30.3cmでした。海苔の大きさが違うということはつまり、海苔抄き杵の大きさが違うということです。海苔抄き杵には、大判・小判・広島判・仙台判、東京判(戦時統制

中に規定されたもの)、九州判(他の判型よりも大きい)など、さまざまな判型がありました。

千葉県で使われていた海苔抄き杵は小判です。内径が縦20.6cm×横17.6cmの判型で、これが江戸前海苔と呼ばれる千葉県産の海苔のサイズでした。海苔抄き杵は町内の漁具屋で販売され、その大きさは千葉県漁連などで統一されていたようです。今回調査した海苔抄き杵の内径は、縦20.4cm×横17.6cmなので、おおよそ合致しています。

現在、海苔の大きさは、縦21cm×横19cmに統一されています。これは流通の問題や海苔製造機械の開発の隆盛などによって決められた規格で、千葉県で採用されたのは昭和50年(1975)以降のことでした。海苔づくりのほとんどの工程が機械化されていくなかで、海苔抄き杵も海苔づくりの舞台から退場し、当時の面影を伝えるのみとなっています。

収蔵庫整理は今後も進めていく予定です。各収蔵庫整理事業報告展示のリーフレットも配布予定ですので、次回の展示もぜひ楽しみに!

参考文献

浦安市郷土博物館収蔵品データベース
『重要有形民俗文化財 大森及び周辺地域の海苔生産用具』大田区立郷土博物館

(歴史博物館 吉田 華)



【写真1】 海苔抄き杵